

小牧市のシンボル 国指定史跡小牧山で今年も発掘調査が開始されました。

今年の発掘調査は主郭（本丸）の南東斜面約 460 m<sup>2</sup>で実施されます。

8月初旬から調査予定箇所では樹木の一部を伐採しました。これは、埋もれた石垣の上に生えている樹木が調査の支障となるだけでなく、樹木の根が石の隙間に入り込み、石垣を傷めてしまうことを防ぐために行ったものです。

近年の発掘調査では織田信長の築いた石垣が続々と発見され、専門家、歴史ファンからも注目されている小牧山城。

今年度の調査でどのような成果が得られるか期待が膨らみます。

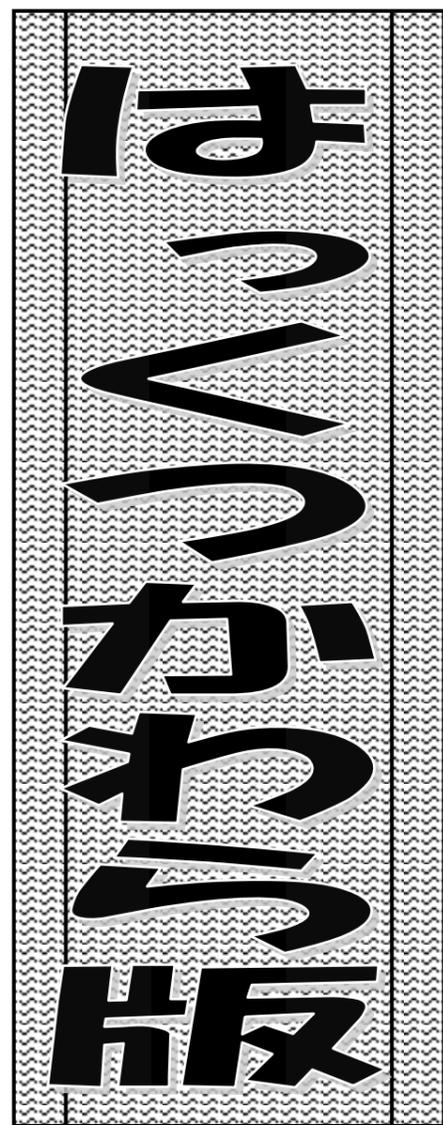
# 主郭地区発掘調査はじまる

木や土で覆われた斜面の下には 450 年前の石垣がのこっています。

下は昨年度調査箇所を同じアングルから撮影した写真調査前（左）、調査完了時（右）です。



## 小牧山城



創刊号

20120820

### 発掘ひとくちメモ

#### ～「小判はでるか？」～

実は調査現場にいらっしゃる方から一番多くいただく質問がコレです。大判・小判は安土桃山時代以降に製造される貨幣で、戦国時代の城である小牧山城から出土する可能性は残念ながらとても低いと思われます。

調査中ご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をお願いします

小牧市教育委員会